

地域懇談会（県南ブロック・球磨地域）の概要 について

1. 開催日時等

日 時：平成17年11月17日（木）13：30～16：30
場 所：人吉市総合福祉センター 大会議室

2. 出席者

関係市町村の長及び議長：

人吉市、錦町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、
山江村、球磨村の長及び議長（計18名出席。ただし、人吉市議
会からは合併特別委員会委員長、水上村は収入役、相良村は職務
代理者の出席）

委 員：今里委員、中村（義）委員、萩嶺委員（計3名出席）

事務局：川口市町村総室長 他

3. 主な意見等

- ・ 旧法で合併が進んだのは、財政優遇措置が行われたから。新法下でも財政支援がなければ合併推進は厳しいと考えている。郡の市町村長と会っても一言も合併について話をしたことがない状況にある。
- ・ 新法と旧法では合併する状況が大きく変わってきているが、前回と同じ轍を踏まぬように、関係町村と胸襟を開いて話合っていく必要がある。
- ・ 川辺川ダムの問題を抱えているこの地域にとって市町村合併よりもっと大切なものがある。農林業が基幹産業のこの地域に、県は合併をすすめてどうやって食っていけ、生きていけというのか。県に対して期待する一方では川辺川の話もあり県を信用して良いのか迷っているのが当地域である。
- ・ 合併に対する期待感もあり、合併は必要と考えている。しかし、平成19年度以降の国の制度もよく見えない中で、住民への説明も困難な状況。
- ・ 合併は、国や県から規模の明示があった方がやりやすいのではないかな。
- ・ 介護保険や国保が嵩むのはどこでも同じであると思うし、もっと広域でやるべきと考えている。
- ・ 意向調査の結果で、今後行政ニーズが高まるものとして、高齢者福祉や農林水産業振興があがっているが、これらが合併によって解決できるのか疑問に思っている。
- ・ 今のところ合併・単独のいずれの選択をするのか判断はしていないが、合併してスケールメリットにより課題が解消できるとは考えない。それよりも小さな町村の方がまとまってやっていけるのではないかな。
- ・ 合併は必要だと思っている。H16年度の地方交付税12%減を受け、やっていけないと思った。
- ・ 平成15年5月に合併に係る住民座談会を13地区で開催し、合併問題と行財政再建計画書の説明を行ったが、合併反対はなかった。議会においても合併に賛成している。

- ・ 地理的に球磨郡の一番奥にあり、合併するとなると取り残される不安がある。財政的にも基金等を積み立ててやっており、合併するための条件整備が整いそうにないと考えている。
- ・ 一般行政職は45人体制で1人が10～20位の仕事を担当している。スタッフは少ないが、人口も少ないので取り扱う案件も少ない。
- ・ 村長不在のため、合併問題について何とも言いようがない。
- ・ 財政力はもともとないが、更に財政力が弱くなりつつある。国が進める税源移譲についても、税源の少ない本村においては、これまでの住民サービスが維持・向上できるか難しい状況にある。しかし、合併がベストかと言えばそうでもないと考え、単独も選択肢として真剣に考えるべきではないか。
- ・ 合併も一つの行革の手段というのには是認できる。ただ、合併には理念、理想がなければいけないのではないかと。先ず、地方分権についてしっかり議論して、合併が必要であるということであれば、その次に合併の検討に入っていくということが順番ではないかと考えている。
- ・ 合併した自治体でどのように分権が進んでいっているのか。或いは進んでいくのか。また、水平・垂直補完は進むのはいつなのか。これらの時期を見極めていく必要がある。
- ・ 合併問題が進まないのも川辺川ダムの問題が絡んでいる。
- ・ 基礎的自治体が何故1万人なのか。合併の問題は自治の問題。自治の原動力は、住民の地域に対する愛着や誇りによることが大きいと思っている。住民サービスを維持しながらどのように効率化を図っていくかということ。合併しようがしまいが行革を行う必要があるが、行革を行うと必ずサービスは落ちることになる。大事なことは、住民の方々がその住民サービスでどのような満足感をどう得ていくかということ。地域のコミュニティや住民参画が大事。
- ・ 自立の道、合併の道の両方を見据えながら進めていきたい。相手があることなので周りの町村の意向も伺いながらやっていきたいと思っている。
- ・ 財政問題が厳しくなるのは目に見えており、できれば合併新法下での合併を検討したいと考えている。そのためには、住民への周知その他いろいろな議論を行わないと進まないと思う。
- ・ 「質の良い行政サービスを行うために」との言葉は行政用語であり、合併したら良くなるということだけでは、住民、特に高齢者には通じない。
- ・ 今後の住民への説明のきっかけのひとつとして、県の「合併推進構想」が使えればと思う。そういうものを材料にしながら、住民の議論をしていかなければ進まないと思っている。